

薬について



ハートクリニックデイケア看護師

今日のお話

1. 薬の一般的なこと
2. 精神科・診療内科で
使われる薬について
3. 家族の役割



くすりの名前



薬は3つの名前をもっています。

ひとつの薬に対していろいろな商品名のも
のが何種類も販売されている。

(例)

化学名： 1,3-dihydro-7-nitro-5-phenyl-2H-1,4- benzodiazepin-2-one

一般名： ニトラゼパム (nitrazepam)

商品名： ベンザリン(塩野義)・ネルボン(三共)

処方薬と市販薬



- **処方薬(病院でもらう薬)**

医師が診断をもとに処方する「処方薬」
(医療用医薬品)

- **市販薬(薬局で買う薬)**

薬局でだれもが自由に見える「市販薬」
(一般用医薬品)

薬の使い方からの分類



経口薬 口から飲む薬のことで、胃や腸で溶けて吸収され、血液中に入って飲んでから15～30分で吸収される。

外用剤 皮膚につけることで皮膚から吸収させる貼り薬や、患部に直接塗る軟膏や、目にさす点眼薬や点鼻うがい薬などの液剤などがある。

注射・点滴薬 皮下や静脈などに薬を直接注入するので、吸収が完全で早く、効果も早く現れる。

座薬 主に肛門に挿入して腸管粘膜から吸収されて効果を上げる薬。

吸入薬 吸入器で薬を口中やのどの方に散布する。気管支喘息などの治療に用いられることが多い。

内服薬の剤型から分類



錠剤

カプセル剤

顆粒剤

細粒剤

トローチ

チュアブル

シロップ剤

薬を一定の形に圧縮して作ったもの
医薬品を粉末、顆粒、液状などにして、
カプセルに入れたもの

薬を粒状におおきさをそろえたもの。

細かい粒状にしたもので

飲み込まずに口の中で溶かすもの。

水なしで噛み砕いたり、口の中で溶かして
服用できる錠剤。

糖類、甘味剤を加えてのどの通りをよくし
飲みやすくした内服薬。

薬の服用上の注意 1



服用時は

1. コップ一杯程度の水か、ぬるま湯で飲む。
2. 上半身を起こして飲む。

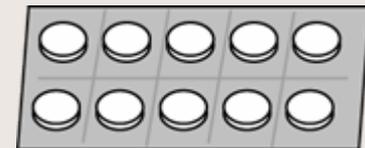
牛乳で薬を飲むのは？

時には構わない場合もある。



アルコールで薬を飲むのは？

原則的には良くない



薬の保管上の注意

それぞれの保管方法で使用期限に使う

薬の服用上の注意 2



- ・副作用

クスリはリスク

- ・飲み合わせ

用法用量を守って正しく服用しましょう。

精神科・心療内科薬(向精神薬)の特徴



- 意識状態の変化を伴うことなく、人間の感情・思考・意欲などのこころの働きに作用する。
- 例えば...沈んだ気分を引き立てる。
幻覚や妄想による不安や興奮を鎮める など
その人の状態(症状)に合わせて薬が処方される。

抗精神病薬



- 作用 鎮静作用・抗幻覚・妄想作用
適用—統合失調症・躁病・幻覚妄想を呈する
脳血管疾患、身体的な疾患や中毒性
精神病

主な薬—コントミン・レボトミン・リントン・セレネース・インプロメン
ドグマチール・ロトピン・リスパダール・セロクエル
副作用—錐体外路症候群・悪性症候群・自律
神経系の障害・肝障害・過敏反応・内分泌障害

抗躁うつ薬①



抗うつ薬

・作用 抑うつ気分の解消

不安・焦燥感の緩和、意欲の向上

主な薬—パキシル・ジェイゾロフト・アナフラニール

アモキサン

副作用—自律神経系症状(口渇・便秘・排尿
困難・頻脈・起立性低血圧・倦怠感)

眼圧上昇(緑内障患者は注意)

心電図への影響

抗躁うつ薬②



抗躁薬

- 作用 精神運動興奮の抑制

主な薬—炭酸リチウム（リーマス）

副作用—腎機能障害の方には禁忌

高齢者も腎機能が低下している為

注意が必要

リチウムの中毒症状

悪心・嘔吐・手指の振戦・眠気・めまい

食欲不振・下痢

抗不安薬



- 作用 情動面に作用し、不安・緊張を緩和
鎮静催眠作用・筋弛緩作用・抗痙攣
作用

神経症や心身症の不安・緊張状態の
緩和に使用される

主な薬—リゾン(セルソ)・デパス・ワイパックス・レキソタン

副作用—鎮静作用や筋弛緩作用による眠気

脱力感・ふらつきといった症状

動悸・せん妄・幻覚・妄想

抗てんかん薬



- ・ 作用 てんかん発作の抑制

主な薬—アレビン・リボトリール・テグレトール・デパケン(バレリン)

副作用

- ・ 精神神経系障害（眠気・めまい・眼振・失調）中毒量ではせん妄・錯乱などの意識障害や統合失調症状状態（幻覚・妄想）が出ることもある。
- ・ 造血器系の障害（顆粒球減少・白血球減少症再生不良性貧血など）
- ・ 皮膚、粘膜の障害（歯肉増殖、皮膚への発疹）
- ・ 催奇奇形（奇形出現頻度は、通常の2～3倍）
- ・ その他（肝障害・骨障害（くる病）・免疫系の障害（全身性エリテマトーデス・SLEなど）

睡眠薬①



- 作用

訴え・症状に合わせての睡眠状態の改善
(寝つきが悪い、眠りが浅い、朝早く目が覚めてしまうなど)

主な薬—バルビツール酸系 (イミタル・ラボナ)

副作用—連続使用にて効果が落ちる事がある。
(耐性形成)

慢性中毒 (情緒不安定・注意力散漫・記憶力の低下・眼振・運動失調・構音障害など)

睡眠薬②



- ・ 非バルビツール酸系（フロバリン・アモバン）
副作用

バルビツール酸系に比べると依存性は低い。

- ・ ベンゾジアゼピン系（ベンザリン・ハルシオン・デパス・
ユーロジン・レンドルミンなど）

比較的大量服薬しても、致死に至らない事や
依存性が低い事が特徴

副作用は他の睡眠薬と同様

抗酒薬



- 作用

アルコールの酸化過程を阻害し嫌酒効果を得られる。飲酒すると、急性に心悸亢進、紅潮、嘔吐、発汗、頭痛、血圧下降の症状があらわれ、不快を感じる。

主な薬—シアナマイド・ノックビン

副作用—疲労感・眠気脱力感・肝障害

アレルギー—性皮膚炎

精神症状(幻覚・妄想・せん妄・興奮・抑うつなど)

抗パーキンソン薬



- ・ 作用

主として抗精神病薬の副作用である錐体外路症状を治療したり、防止するために使用される。

主な薬—タズミン（アキネトン） ・ トリフェジノン

副作用—自律神経系に影響を及ぼす。

起立性低血圧 ・ 口渇 ・ 便秘など

家族の役割 病気の理解



- 病名・・・どんな病気 主な症状
- 治療・・・薬、治療方針, 期間
- 診察の同席・・・病気の理解、代弁
(家族だけで別の日の受診もあり)

家族の役割 薬の理解



- どんな薬を服用するのか
- 薬の飲み忘れた時の対応
- 頓服の使い方
- 服用期間・・・1日何回の服用
副作用の状態（薬の変更によるもの）

※主治医の指示を確認しておく

家族の役割

薬の管理の必要性



- 本人の状態・・・薬の服用での変化
副作用の対応
- 飲み忘れ阻止・・・指示通りの服用で治療
の効果が期待できる
- 乱用防止・・・勝手な服用による状態の
悪化を防ぐ
- 頓服の残量・・・過度な服用による依存
貯めこみを防ぐ

家族の役割 薬の管理の実際



- 保管場所・・・家族もわかる場所
- 服用の確認
- 残量確認



※診察時に主治医に話す

まとめ

- 家族の理解

“一緒に治す”という気持ちで

- 見守る距離

見える距離での関わり、関わり過ぎない



ご清聴有難うございました

次回9月7日

テーマは「認知行動療法」です

